



右がジャニス、左がジミー（映画「ミリキタニの猫」のチラシより）

世界で出逢った 詩人たち

④0 「ミリキタニの猫」のガイドで
詩人ジャニス・ミリキタニに再会

白石 かずこ

映

画「ミリキタニの猫」をみた。配給会社のパンドラの中野さんから電話がかかり、みせていただいた。ニューヨークのソーホーの路上で画をかいている日本人ジミー・ミリキタニはサクラメント生まれ、今年九十才。アメリカで生まれ、幼い時、広島に戻ったが、十八才の時、「軍国主義より芸術を！」とアメリカに戻った。ところがすぐ、日米戦争が開始したので、アメリカ国籍を剥奪され収容所に入れられた。まるで罪人だ。その時、幼い男の児も入れられて「兄ちゃん、猫の画かいてよ」とい

われたのが、きっかけで猫の画をかくようになったのサ、その男の児は、かわいそうに収容所で死んだまっつたよ、とジミーは云う。

アメリカ国籍をもつジミーが市民権をとり戻し、自由の身になった時は既に人生の坂は老にむかっていた。コックの仕事etcの末、流れてニューヨークの路上生活者になり、そこでも毎日、猫の画、空爆、収容所、などを画いていたジミーに記録映画をつくる若い女性が現れ、いつのまにか仲よしに。あの九・一一の時、ソーホーも黒い煙でジミーも呼吸困難。こんなところだったら大変と親切な彼女は自分のうちにジミーを連れていき、二人の共同生活がはじまった。彼女の必死の努力でジミーの家族の消息もわかり、あの収容所に入る前まで一緒にいたサクラメントの姉カズコとも再会できた。ときにジミー九十才。

と映画のチラシをみていたら、なんともう一人ミリキタニがいるではないか。姉のカズコ・ミリキタニでなく、サンフランシスコにいるジャニス・ミリキタニ。

彼女は詩人。既に三冊の詩集をだし、シーソー・ウィリアムス牧師と結婚しているとかいてある。

わたしは心臓が爆発しそうになった。えっ！あのジャニス！わたしがアメリカのアイオワの国際創作プログラムに招かれ半年をすぎた一九七四年、アイオワで仲よしになった黒人学生デニス・車ピンントで、アイオワからカンサス・シティ、グランドキャニオン、山や沙漠を走り、ロスアンジェルスから北に出、その近くのサンタバーバラで大詩人ケネス・レックスロス宅に招かれ、彼のところで泊めてもらった。それまでは、お金がないから、車の中で寝る、という旅。ケネスは、わが娘のようなわたしを気づかしてホテルは五十ドルもして高いから、サンフランシスコに日本人の知人ジャニスがいるから、彼女に泊るところをたのんであげよう。そういって連絡をとってくれた。

なんと若い美少女ジャニスは、シーソー・ウィリアムス牧師の助手の役をしていて、わたしがくると、わが友を得たとばかり、歓迎してくれた。実はアメリカの日系二世のジャニスは、黒人、メキシコ人（チ

カノと呼ぶ、インディアンたち、いわゆる第三世界の白人社会から差別、ためつけられてる人達を助ける市民運動をしていて、その中心が黒人のシーソー・ウィリアムス牧師。その頃はまだ人種差別がひどく日本人は黒人とはつきあわず、白人社会とだけつきあっていた時代なので、わたしをみてジャニスとはわが友、同志だと熱烈な歓迎。ぜひ、ボスに逢つてといわれ、翌日、シーソー・ウィリアムス牧師と昼食。その数日前、教会は爆弾をしかけられ、シーソーは、あやうくそれをさけたものの、生命をネラフレテいるのだ。昼食をご馳走するといひデニスの運転するちいさな車に彼と並び、後の席にわたしとジャニス。そのうしろにシーソーをまもるために屈強な男たちの乗った車がつづいた。レストランは海に面し、人々は、ガラスごしに港の海を眺めにぎやかに食事をしてる。わたしたちはその外側の海風の吹く棧橋のところにすわった。入口からは遠い席にシーソーとわたしがむかいあつてすわった。入口に近いところは元殺し屋のボクサー風の黒人のボディガードが数人すわり、誰かが入つてこようとしたら、

すぐ撃てる場所である。彼らは無口でその一人の靴紐の赤が、かわいいので、思わずわたしは、かわいいわ、というと照れていたのを思い出す。生まれてはじめてプロの殺し屋に逢つて興奮した。

無事、食事がすむと翌日、朝の教会に招かれた。天国に行くのを待つていられない。生きてる間に人権、平和、自由をと、シーソーの教会では朝からジャズが演奏され、なんとロックフェスティバルなみに若者の行列が二重に並んでいる。そこでは白人・黒人・チカノ、人種など関係なく皆、牧師ウィリアムスの説話とジャズをききにくるのだ。ジャニスは当時の保守的なアメリカで逢つた唯一の人種的偏見をこえ、熱い第三世界への人達への愛情、友情をもつた人。彼女もあなたみたい日本人はじめて、とばかりお互い心が熱くむすばれた。三日間のホテル代をプレゼントされたS・Fを去り、故郷カナダへと一路、車を走らせたのだ。その日以来、逢つてないジャニスよ、あなたのファミリーは皆フリーダム・ファイターなのネ。なつかしさを胸いっぱい。映画が三十年前にトリップさせてくれた。